

チームたつやま

No. 15
令和4年1月12日
高砂市立竜山中学校
校訓「自主」「協同」「創造」

= 未来予想図 ～ビジョンをもとう～ =

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年のあいさつには、新しい年を迎えられたことを感謝し、この一年をよい年にしていきたいという思いが込められています。そして、「一年の計は元旦にあり」と言われる通り、正月に私たちは^{こころざし}志を立て、その実現に向かって努力することを^{ちか}誓います。生徒のみなさんは、今年の目標を決めましたか。まだの人は、ぜひ目標を自分で考えましょう。こうありたいという理想やなりたい自分の姿を具体的に描いてほしいと思います。このような未来像を描くことを「ビジョンを持つ」と言いますが、その時のポイントは「プラス思考」です。プラス思考で描いたビジョンを持ち続け、しっかりと意識して毎日を過ごしましょう。うまくいかないことがあったり、くじけそうになったりして簡単には目標を達成できないかもしれませんが、目標を^{あんい かほう}安易に下方^{しゅうせい}修正せず、どうにかして達成しようとねばり強く続けることが大切です。

目標達成!



今年の箱根駅伝で、青山学院大学が6度目の総合優勝を果たしました。チームの強さの理由はいろいろあると思いますが、「選手の自立」と「ポジティブな考え方」などにあると聞きます。自分の意見を伝えることや前向きな話をするを大切に、「明るさっていいことなんだ」「話をして提案するのはいいことなんだ」「選手自身が自立することはいいことなんだ」と、監督は語っていました。プラス思考をしようとするチームの雰囲気の中で、自立し自律^{※注}できる選手が育ち、強さにつながっているのではないのでしょうか。目標達成のための特別なことや近道はなく、毎日の授業や部活動の練習、クラスでの取組など、少しずつの積み重ねが大事なのでしょう。一日一日を大切にコソコソと物事に真剣に挑み自分を高めている人には、必ずチャンスが巡ってきて願いはかないます。目標を達成しようとする自分の心からすべては始まります。〔※注 自立: 独り立ちすること 自律: 自分を律すること〕

= いきいき生徒会会議 ～充実した学校生活を～ =

「いきいき生徒会会議」が12月27日に開催され、高砂市内中学校の生徒代表が集まって交流しました。竜山中からは新生徒会長石井幸大さんたち4名が参加。「スマホルールを考える～いじめのない学校生活を送るために～」をテーマに、ネット利用のモラルやスマートフォンの適切な使い方を考え、いじめのない楽しい学校をつくるにはどんなことが大切なのかを話し合いました。また、学校のきまりやルール、生徒心得について、他校の生徒の考えなどを聞き意見交流をしました。こうした取組をこの会議だけにとどまらず、各学校、各クラスで自分のこととしてとらえて、自主性と責任感を育て、楽しく充実した学校生活が送れる竜山中にしてほしいと思います。



= 新生徒会役員決定！ ～自主性を育てよう～ =

令和4年度の生徒会役員が決まり、7日に任命しました。新生徒会長、副会長を中心に竜山中学校生徒会のよき伝統を引き継ぎ、より活気ある生徒会活動を進めてください。

生徒会活動は、本校校訓「自主」（自分で考え主体的に行動する）を伸ばすための大切な活動です。生徒会役員の人たちだけでなく、生徒みんなの力でよりよい竜山中学校を創っていきましょう。新生徒会役員のみなさん、学級役員のみなさん、よろしくお願いします。

3年生の生徒会役員のみなさん、一年間本当にご苦労さまでした。毎朝のあいさつ運動、体育大会や文化祭の準備・運営等いろいろな活動を意欲的に続けてくれました。ありがとうございました。中学校生活は残り少ないですが、これからも後輩たちを支えてやってください。

生徒会長	石井 幸大
生徒副会長	松井 彩弥乃
書記	杉野 琴芭
文化委員長	濱村 孝人、福德 風菜
図書委員長	田中 想以、松口 瑠那
美化委員長	莊所 尚樹、三柴 華
保健委員長	伊奈 侑汰、乾 優月
体育委員長	有末 光貴、中宮 舞

= 謡曲「高砂」 ～日本の伝統を学ぶ～ =

1月7日、^{ようきょく}「謡曲合唱団たかさご」代表の松本憲三先生にお越しいただき、謡曲「高砂」の歴史や歌い方などを教えてもらいました。今年は感染予防のため、オンラインにより全校生が各教室でお話を聴きました。この体験はふるさと高砂を愛するところを育てることを目的として、毎年行っている行事です。「高砂とはどんなところですか？」と訊かれたとき、^き自信をもって紹介できるのが、この有名な謡曲です。正月らしい^{おもむき}趣があり、日本の伝統文化に触れることができました。いい体験をさせていただきありがとうございました。

高砂や
この浦舟に帆をあげて
この浦舟に帆をあげて
月もろともに出汐の
波の淡路の島影や
遠く鳴尾の沖すぎで
はや住江に着きにけり
はや住江に着きにけり
はや住江に着きにけり

= 阪神・淡路大震災から 27 年 =

阪神・淡路大震災から27年が過ぎようとしています。1995年1月17日午前5時46分、明石海峡を震源としてマグニチュード7.3の大地震が発生しました。6434人の方が地震の犠牲となり、多数の家屋やビルが倒壊、焼失。^{ぎせい}鉄道や道路も大きな被害を受け、復興までには多くの人たちの努力と長い年月がかかりました。27年を経て震災の記憶は遠くなりますが、私たちは兵庫県に生まれ生きる者として、この大震災の記憶は決して忘れず語り継いでいかなければならないことです。新聞やテレビで、震災を経験した人の体験談など1.17に関連した内容の報道がされます。これらを通して、まず知ることから始めましょう。この大震災以降も、東日本大震災、熊本地震などの大地震が発生しています。そして、南海トラフで地震が発生する確率は、30年以内で70～80%と言われています。日本に住む私たちは、地震を避けることができません。1.17を機会に震災の教訓から学び、防災の意識を高めていきましょう。それが、自分や家族の命を守ることに繋がります。